

お世話人形を使った「ごっこ遊び」は子どもの心の発達に貢献します①

いつの時代もお子さんが大好きな「お人形遊び」。やさしい子に育てて欲しいという願いから保護者がお子さんに勧めることも多くみられますが、子どもの心理発達にどのような効果があるのか、慶應義塾大学文学部 赤ちゃんラボ主宰 皆川泰代教授と共同研究を実施した結果、優れた効果があることがわかりました！

出典：慶應義塾大学 文学部 赤ちゃんラボ主宰 皆川泰代教授 「人形遊びとこころの発達：「めばえる やさしさ おもいやり」の実証（2017年）」

【実験方法】

2.5歳～3.5歳の子どもと母親、合計60組をA、B、C群に分け、下記の条件での一週間の遊びの前後で3つの実験課題（利他行動、心の理論、共同注意）を与えて、課題のスコアがどのように変化するかを調べました。

- A群・・・子ども・母親・メルちゃんの三項関係+特別なスクリプト
- B群・・・子ども・母親の二項関係+特別なスクリプト
- C群・・・子ども・母親+通常のスクリプト



【実験結果サマリー】

実験課題を通じ、お世話人形を使ったごっこ遊びは、以下のように子どもの心の発達に貢献するという結果が判明しました。

- 身振りや視線などを使って他者との気持ちの共有を図るコミュニケーション行動を促します（「共同注意」の発達）

「共同注意」とはまだ言葉の話せない0歳児のころから見られる行動で、視線や指差しなどを使って他者と気持ちを共有する、コミュニケーションの基礎を作る大切なステップです。子ども・母親・お世話人形の三項関係によるごっこ遊びにより、このような他者との気持ちの共有が進むことが明らかになりました。

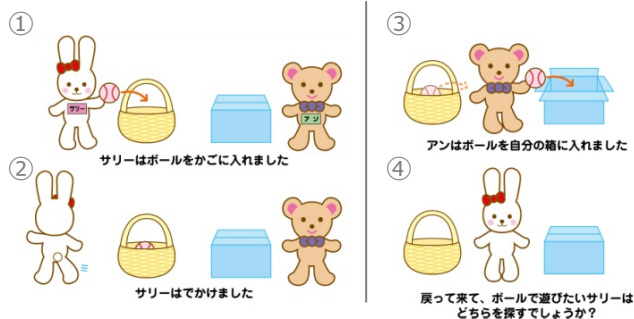
- 「自分の心の動きと他者の心の動きは違う」ことへの理解を促します（「心の理論」への理解促進）

「心の理論」とは他者の心の状態や意図・信念などを理解する機能のことで、この機能の発達度合いは「サリー・アン課題」で判断することができます。（下図参照）この機能を持つ前の2、3歳の子どもは「自分の見たもの知っているものは他者も同じだ」と考えてしまいがちですが、子ども・母親・お世話人形の三項関係によるごっこ遊びを行うことで、「自分の心の動きと他者の心の動きは違う」ということに対する理解が進むことがわかりました。

【参考】サリー・アン課題

右図のストーリーを子どもに見せて質問することで「心の理論」に対する理解の進みを判断します。

3歳くらいの子どもの場合だとサリーとアンは同じだと思いがち、最後の問いに対して「サリーはアンの中を探す」と答えてしまいがちですが、「心の理論」への理解が発達すると、「自分の見る世界と他人が見る世界は違う」という認識が出来るようになるため「サリーはかごの中を探す」と答えることができるようになります。



サリー・アン課題

- 他人をおもいやる気持ちの基礎となる心の発達を育みます（「利他行動」への発展可能性）

「利他行動」とは、他者の気持ちを理解し、自分に得がなくても困っている人がいたら慰めをしたり助けようとしたりするという行動です。今回の実験では利他行動の直接的伸長はありませんでしたが利他行動の発達の基礎となる「共同注意」と「心の理論」の項目の得点、子ども・母親・お世話人形の三項関係によるごっこ遊びをしたA群のスコアだけ伸長しました。

お世話人形を使った「ごっこ遊び」は子どもの心の発達に貢献します②

【慶應義塾大学 皆川泰代教授コメント】

● 親子のごっこ遊びに“お世話人形”を加えることが心の発達を促進する

ごっこ遊びは、言葉の発達、認知能力、社会性の発達を伸ばす“遊びの頂点”だと言われてい
ます。今まで幼児期のごっこ遊びが心の発達に与える影響についての研究は、アンケートや
聞き取り調査など主観的なものが多かったのですが、今回は実験心理学を用いて子どもの心
の発達を数値化することで客観的にその伸びを明らかにしました。

「同じスクリプトを利用しながら、お世話人形の有無で結果に差が出た」という今回の実験
結果から、親子のごっこ遊びの会話の中に「お世話人形」を加えることで「やさしさ、おも
いやり」の基礎部分となる重要な心の発達を促すことが実証されたと言えます。

● ごっこ遊びに「メルちゃん」が適している理由

メルちゃんのようなお世話人形は初期のごっこ遊びを始めたばかりの小さいお子さんをはじ
め、幅広いお子さんのごっこ遊びに適していると考えられます。自分よりも小さく弱い存在
をお世話することを通じて、おもいやりの心が育まれ、さらにお世話をしてくれるお母さん
側の気持ちも分かるようになるからです。

この時、お世話人形に対して愛着が持てるかどうかということも重要になりますが、メル
ちゃんは、小さい子どもにとって持ちやすく、抱っこしやすいサイズです。さらに可愛らし
い表情も愛着を醸成しやすいため、初期のごっこ遊びを始めた子どもたちに最適なお世話人
形ではないでしょうか。

●メルちゃんとの「心を育てるごっこ遊び」のためのアドバイス

今回の実験では「お世話人形の心の状態を言語化する」というスク
リプトでお世話人形と遊んでもらった群だけに、お子さんの心の成
長の顕著な伸びが見られました。

これは「メルちゃん、お腹を空いて泣いてるのかな?」「メルちゃ
んお風呂に入って楽しそうだね」などといったようにメルちゃん
という「第三者」の心の状態を保護者が言葉にしてあげていたためと
考えられますが、保護者も子どもとの1対1の関係の時よりも、メル
ちゃんが介在することにより「第三者の気持ちを代弁する」とい
う行為が自然にできるようになるようです。

それ以外にも、子どものコミュニケーション能力を育むためには、
子どもからの発声や笑いかけ、視線などの合図に対して積極的に反
応してあげることが重要です。子どもは自分の働きかけに対して保
護者が即座に反応してくれることをご褒美のように感じるので、そ
ういったやりとりにより発声や発語が更に促されたり、長い目で見
た時にコミュニケーションスキルを伸ばすことにもつながっていく
と考えられます。



慶應義塾大学 文学部心理学専攻
教授 赤ちゃんラボ主宰
皆川泰代（みながわ やすよ）氏

お世話を通じたごっこ遊びで
おもいやりの心を育む「メルちゃん」

「メルちゃん」は親から子へ愛され続けて26年を迎えました。
お子さまと保護者に寄り添い、健やかな心身の成長を見守る
愛育ドール「メルちゃん」に、これからもどうぞご期待ください。



本件に関するお問い合わせ先：パイロットインキ株式会社 玩具事業部 担当：佐々木・森川
TEL:03-3844-3275 Mail:sasaki@pilotink.co.jp (佐々木) morikawa@pilotink.co.jp (森川)
「愛育ドールメルちゃん」公式HP: <http://www.mellchan.com>